



仲間とともに、よりよく生きる

# 道徳科

## I はじめに

平成28年12月に中央教育審議会から示された「幼稚園、小学校、中学校、高等学校及び特別支援学校の学習指導要領等の改善及び必要な方策等について（答申）」では、将来、道徳的な選択や判断が求められる問題に対峙したときに、自分にも他者にとってもよりよい選択や判断ができるような資質・能力や、様々な場面、状況において、道徳的価値を実現するための問題状況を把握し、適切な行為を主体的に選択し、実践できるような資質・能力を育むことにつなげられる道徳科の学習が重要であると述べられている。

このような学習の実現には、生徒一人一人が道徳的な題材を自分のこととして捉えて向き合うだけでなく、自分の考えや立場をはっきりさせ、見通しをもって学習に参加したり、自己や他者との議論などを通して題材について多面的・多角的に考えたりすることが必要になる。また、そのような学習を通して個々が納得できる考えを導き、自分自身の考えが何によって深まったり変容したりしたかについて、生徒自身が捉えることが大切になる。こうした点から、上述の資質・能力の育成と本校の研究の重点が大きく関連すると考える。

そこで今年度は、昨年度の道徳科における「自律」と「共栄」に向かう学びに関する研究内容を基に、生徒自身が学びの過程に自ら着目し、「省察」を活用することで、将来にわたって他者と共によりよく生きるための基盤となる道徳性の高まりにつなげたい。

## II 道徳科の研究内容

### 1 道徳科における「自律」と「共栄」に向かう学び

本校の道徳科における「自律」と「共栄」に向かう学びとは、題材を通して道徳的価値と向き合い、仲間と関わりながら、感受性や感性を含めた様々な考え、もしくはその考えの表れである言葉から自分の考えを選択し、互いの考えを交流し、補い合うことで、多面的・多角的に道徳的価値の理解を深め、道徳性（道徳的な判断力、心情、実践意欲と態度）を養うことである。道徳科の授業は導入段階での道徳的なものの感じ方や考え方が生徒個々で異なる。「自律」と「共栄」に向かう学びが展開される中、自他の多様な考えを交流することで、道徳的価値を多面的・多角的に捉え、道徳的価値の理解が深まり、それによって道徳性が養われることにつながる。

また昨年度は、生徒が自らの道徳的価値の深まりや変容を自覚し、それが何を通して実現できたかを捉える点について課題が残った。生徒自らが道徳的価値の深まりや変容につながる学びの過程を見直すことは、知の獲得の実感や道徳的な題材に積極的に向き合う意欲、そして将来にわたって道徳的な選択や判断が求められる問題に対して主体的に考え、実践する姿につながっていくと考える。

それらの実現のために「省察」が有効になると考える。道徳科における「省察」の対象は、自らの道徳的価値がなぜ深まったか、あるいは変容したかを捉えることである。これによって、道徳科の目標である道徳性の育成を図りたい。また「自己を拓き、協創する生徒の育成」に迫りたい。

### 2 「省察」を活用した「自律」と「共栄」に向かう学びの手立て

1年次における「自律」と「共栄」に向かう学びの手立ては2点あった。1点目は授業の中で発せられた多くの言葉の中から自分の考えに影響を与えた仲間の言葉や考えを選択し、カードやワークシートに記すことで自己の変容の自覚化を図ることである。また2点目は、授業の序盤に自分の考えや立場を明らかにする場面を設定し、それを比較しながら考えを共有することで、他者との交流を通して道徳的価値を多面的・多角的に捉える授業展開である。これらには今次研究における「省察」につながる視点が既に含まれていたが、「自律」と「共栄」に向かう学びの過程で生徒自身が「省察」を活用し、自らの選択した考えや多様な他者との関わりを通じた自己の変容をより明確に捉えるために以下のように手立てを整理し、実践を行った。

また昨年度に活用した「心にひびいたわ〜ド」は、授業の終末における振り返りの際、自分の考えを深め

ることにつながった発言を記述し、自己の変容に影響を与えた他者との関わりでの自覚化を図るものであり、「自律」に向かう視点をねらいとしていた。しかし自己の変容を自覚し、それが他者のどのような発言によるものかを捉えるという点において、「省察」のアプローチになることが期待される。

**(1) 自己と他者の考え・立場を比較し、道徳的価値を多面的・多角的に捉える学習展開**

意見が対立するような題材や多様な視点から捉えられる題材について、自分自身の考え・立場を明らかにするように促す同様の発問を授業の序盤と終盤に行う。序盤の発問では、生徒がこれまでの経験や学びが反映された個人の考えによって考え・立場を選択することになる。それを可視化することで、生徒は互いの考え・立場を比較することが容易になり、「この人の考えを聞いてみたい」と興味が喚起されたり、意見交流を通して「この部分は自分の考えと同じだ」「このような意見もあったのか」と感じたりすることになる。こうして一つの題材を多面的・多角的に捉えた後で終盤の中心発問を行う。このとき、生徒は自己や他者との対話を通して得られた様々な考えを基に、自分なりに考え、自己の考え・立場を再び選択することになる。これが「自律」に向かう視点となる。また、再び選択した互いの考え・立場を比較することを通して、自ら目的をもって他者と関わろうとしたり、自分の考えが他者にも影響を与えたことに気づいたりして、互いに成長を目指す姿につながる。これが「共栄」に向かう視点となる。このような展開によって生徒は自らの考え・立場が授業の序盤と終盤で変わったり深まったりすることを自覚し、自己の道徳的価値の理解の深まりや変容が何によって深まったのかについて、「省察」を行うことになる。そしてそれによって道徳性が養われ、次の授業にも活かそうとする意欲につながると考える。

そのためには、ダイヤモンドランキング（図1）のように生徒個人の様々な視点を可視化するツールや、モラルジレンマの教材のような意見対立を促す題材などを用いることが考えられる。例えばダイヤモンドランキングについては、「あなたが友達に求めるものは何だろう」という発問を行い、生徒が自分の大切にしたい視点をまとめ、他者との意見交流を通して自分のランキングを変えていく。またモラルジレンマの教材については、「もしあなたが～の立場ならどうするか」という発問に対するそれぞれの考え・立場を選択し、黒板にネームプレートを貼ることなどによって可視化する。これらを用いた授業展開によって、「省察」を活用した「自律」と

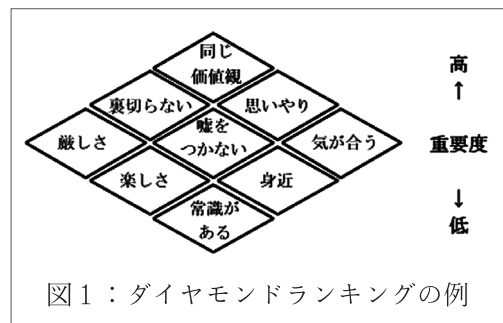


図1：ダイヤモンドランキングの例

「共栄」に向かう学びが行われ、道徳的価値の理解の深まりや道徳性が養われることにつながる。

**(2) 体験的な活動を通して多様な考えを共有し、道徳的価値を深める学習展開**

授業の序盤に、本時の中心となる価値に関わる自己の状況や課題の解決方法を考えるように促す発問を行い、生徒はそれについて体験的な活動を通して現状の自己について考える。考えた内容を基にして互いに意見を交流し共有する中で、「自分が～と考えていたことが、〇〇さんの考えから・・・と捉えることができるのではないか」「自分が悩んでいたことが△△さんの考えによって解決できそうだ」と考える。それに対して、最初に考えた自己の状況や課題の解決方法などを再考したり、それらを通して新たに気づいたことを考えたりするように促す。これに対して、生徒は互いに交流し共有された自他の考えを取り入れながら、自己の考えを捉え直すことになる。これが「自律」に向かう視点となる。また、交流の中で「自分の発言が□□さんの課題の解決に役立った」などと、自分にはなかった視点から自己を捉え直し、互いに支え合う実感につながる。これが「共栄」に向かう視点となる。そして授業の終盤の中心発問によって、生徒はそれまで共有された内容を基に本時の中心となる価値について考え、道徳的価値の深まりや変容を自覚することにつながる。これが「省察」のアプローチとなり、それによって生徒は、自分の道徳的価値の深まりや変容について「省察」を行うことになる。このような学習展開によって生徒は実感を伴って道徳的価値の理解を深め、道

徳性が養われ、実際に道徳的な判断が必要とされる場面でもそれを活かそうとする姿につながると考える。

この体験的な活動については、構成的グループエンカウンターのお考え方を採用することが考えられる。これは主に特別活動において多く実践されている手法であるが、本時の道徳的価値に関わる内容について体験的に実感を伴って理解し、自分ごととして捉えることができる点において、有効になると考える。

### Ⅲ 実践例

#### 第2学年

- 題材：最後の勤務
- 教材：自作資料、サントリー BOSS CM「働くなって、いいもんだ THE LAST TRAIN」
- 内容項目：C-13 勤労

#### 1 題材について

本校では第2学年の総合的な学習の時間で「はたらくこと」、「生きがい」について学習を行っている。その中で、「はたらくこと」については、自身の生活を成立するだけでなく、社会に貢献するという意義について理解している生徒が多い。しかし、昨今の働き方の変化もあり、「下積み」等、自身の希望する仕事に直結しないことに労を費やすこと、働き「続ける」ことの意義など、勤労の「尊さ」の部分に価値を感じている生徒は少ないと感じた。

本題材では、働くことの意義を再度確認しながら、勤労の「尊さ」を理解し、自身の進路の実現に向けてたくましく進もうとする道徳的心情を育みたい。

#### 2 授業の展開

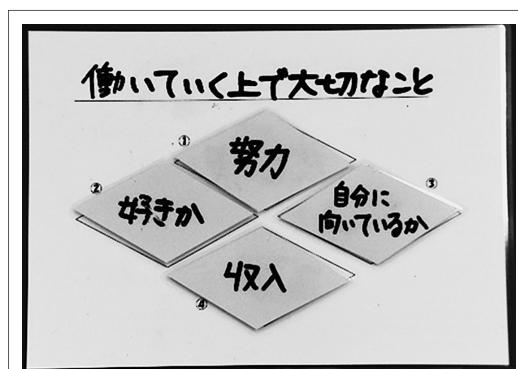
- 1) 総合的な学習の時間で「働くこと」の意義について学習したことを振り返る。
- 2) 【基本発問】「働いていく」うえでどのようなことが大切だと思いますか。  
【図2】のダイヤモンド・パズルに「働いていく」上で大切なことを書き出し、整理し（順位づけを行い）、ワークシートに記録する。
- 3) 自作資料を読み聞かせる。
- 4) 【基本発問】ショウイチはどのようにマサキに答えるべきか。  
ダイヤモンド・パズルに挙げた項目を使いながら、「私は〇〇ということを大切に考え、彼は△△するべき」という形式で自分の考えを伝える。また、周りの意見を聞いて、ダイヤモンド・パズルは随時動かし、自分の考えを整理する。
- 5) 「働くなっていいもんだ」の動画（2分間）を視聴する。
- 6) 【中心発問】「働いていく」うえでどのようなことが大切だと思いますか。  
ダイヤモンド・パズルを操作し、自分の考えをまとめる。
- 7) こころのあとに授業を終えた自分の感想・考えを記入し、必要な生徒は心にひびいたわ〜ドを記入する。

#### 3 「省察」を活用した「自律」と「共栄」に向かう学びの手立て

- (1) 自己と他者の考え・立場を比較し、道徳的価値を多面的・多角的に捉える学習展開

本時では、【図2】のダイヤモンド・パズルを用いて自分の考えを整理し、自分の考えと他者の考えを比較し、その変容を自覚することをねらった。授業の導入で、総合的な学習の時間で行った「働くこと」の意義を参考に、自分が就職して働いていくうえで大切だと思うことを選択する。〈「自律」に向かう視点〉希望通りに就職した友人が、実際に働いてみると、思った通りに勤務できず、転職の相談を主人公にするとい

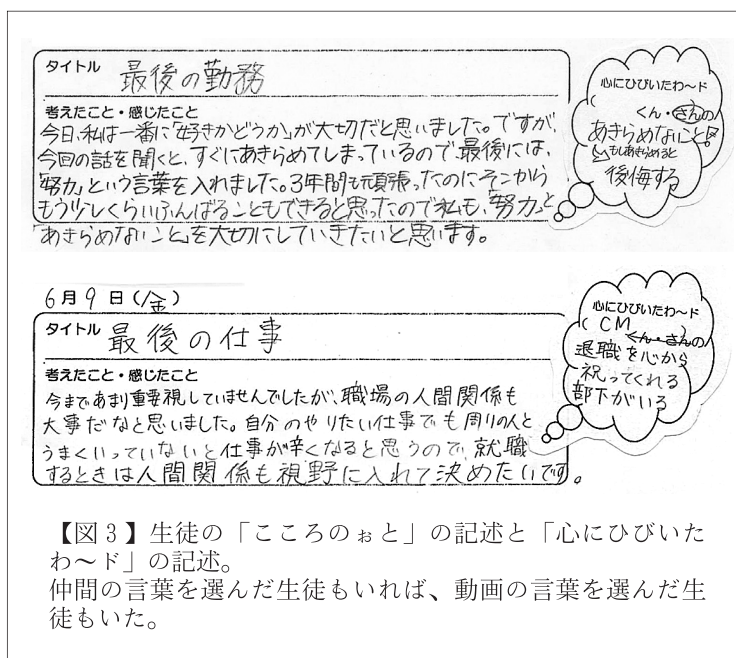
う自作資料を配付する。ダイヤモンド・パズルで選択した項目から自分が主人公なら友人にどのようなアドバイスをするかを交流する中で他者の考えに触れ、「働いていく」うえで大切なこととは何か考えを深めていく。〈「共栄」に向かう視点〉また、交流の中で他者の考えを聞いて、ダイヤモンド・パズルを動かしたり、項目を自由に変更したりするときに、仲間がどうしてそのように意見になったのかということを考えることを通して、自分の考えを見直し「省察」することにつながると思う。さらに、ある地下鉄の区長の最後の勤務日を追った動画を視聴することで、長年勤務した人がどのような思いをもって退職するのか、何を大切にきてきたのかをその一端に触れ、これまでとは違う視点を得て、勤労の尊さを深めることにつながると思った。



【図2】ダイヤモンド・パズル  
ダイヤモンドランキングを参考に、ラミネート処理した簡易ホワイトボードに自分の考えを書き込む。マグネット式になっているので、自分の考えの変容に合わせて移動させたり、書き直したりすることができるようにした。

#### 4 実践を終えて

4) の場面で、多くの生徒が自分が考える「働いていく」うえで大切だと思ふことを根拠に自分の意見を述べる姿が見られた。また、交流の途中でダイヤモンド・パズルを変更する時間を設けることで、それまでの仲間の意見も参考に自分の「働いていく」うえで大切だと思ふことを見直し、その後の交流の方が多くの生徒の声があがった。また、交流の後半に自分の意見を述べた生徒の多くが他者の考えを参考にしたり、自分の考えと比較したりすることで考えを深めていた。また、【図3】の「こころのおと」の記述にも他者の考えから自分の考えを見直したことや、多くの生徒が



【図3】生徒の「こころのおと」の記述と「心にもひびいたわ〜ド」の記述。  
仲間の言葉を選んだ生徒もいれば、動画の言葉を選んだ生徒もいた。

「心にもひびいたわ〜ド」を記述していたことから自分の考えの変容の過程を見つめ直し、どのようなことに価値があるのか、また、そのきっかけになったものは何かを捉えている生徒がこれまで以上に多かった。

## 第2学年

- 題材：礼儀と判断
- 教材：「接遇マナー研修」 朝日新聞デジタル 2014.02.28 …… 資料1  
「挨拶できなきゃ留年」毎日新聞記事 2001.05.02 …… 資料2
- 内容項目：B-7 礼儀

### 1 題材について

本題材では、2つの資料を用いて「挨拶は相手に対する気持ちを形にしていくもの」という視点と、「挨拶に成績がつけられる」という事例について考えることを通して、礼儀は相手に対して敬愛する気持ちを具

体的に示す人間尊重の精神が大切であることを理解する。

生徒は挨拶の意義を考えたことがないまま、無意識化の中で表面的に行っていることも少なくない。そのことによって、その場の状況に左右され挨拶が形骸化する場面も見られる。挨拶の意義を主体的に考え、根底に流れる礼儀そのものの意味を深く理解することによって、時と場に応じて道徳的判断ができるようになるものと考えられる。

## 2 授業の展開

1) 普段、何気なくしている挨拶を振り返る。

【基本発問①】挨拶とは何だろうか。

2) 生徒は挨拶について普段感じることを発言する。

3) 挨拶は、お互いにとってしないより、した方が気持ちのよいものだという意見を共通認識する。

4) 資料を配付し、資料1、資料2の順に範読する。

【基本発問②】この高校の「考え方には一理ある」か「絶対反対」か。

5) 生徒は意見によって教室の左右に席を移動し、対立意見を可視化する。

6) 生徒は「考え方には一理ある」「絶対反対」の理由を発表する

【中心発問】挨拶とは何だろうか。

7) 生徒は今日の活動や議論を振り返りながら、自分の考えを記入する。

8) 生徒はワークシート記入後、「挨拶とは何か」について自分の考えを発表する。

9) 生徒は「こころのあと」に授業を通して学んだことや感じたことを記入する。また、印象に残った仲間の意見があれば「心にひびいたわ〜」に記入する。

## 3 「省察」を活用した「自律」と「共栄」に向かう学びの手立て

### (1) 自己と他者の考え・立場を比較し、道徳的価値を多面的・多角的に捉える学習展開

本時の序盤では、挨拶の大切さや必要性を感じている中、資料1から挨拶は義務かという問いが生徒に生まれる状況を設定した。高校の挨拶を評価するという考えと、社会に出てからは接遇が仕事の一貫であり評価されて当たり前という事柄から、自分の考えや立場を選択する。考えによって、ネームプレートを貼り分け、座席を分けることで、対立意見を可視化する。可視化された考えを基に生徒が自己や他者との議論を行い、その後改めて挨拶とは何かを考える発問を行う。このとき、生徒は自己や他者との対話を通して「心・気持ち・敬意を形に表すことが必要」「自発的にするもので、強制されるべきではない。」など、挨拶に対する様々な考えを基に、自己の考え・立場を再び選択することになる。〈「自律」に向かう視点〉また、再び選択した互いの考え・の立場を比較することを通して、礼儀は相手に対して敬愛する気持ちであることを理解することにつながる。

私は最初一理ある派でしたが、話し合いを聞いて、絶対反対派に変わりました。挨拶は相手に好意があってやるものだと思うので、成績のためという意識が付いてしまったら、これから生活していくうえで相手に対する姿勢が悪くなるので反対です。

今回の話を通して考えると、挨拶とは、自分から進んで、相手が気持ちよくなるようなものだと思う。挨拶は、成績のためにやるものではないと「絶対反対」側の人が出しているのを見て、ならそれは自分から進んでやることに意味があるのかな、と思った。それに加えて、「声の大きさ」とか、「おじぎの角度」とかそういうことで相手が気持ちよくなるなら、それは挨拶はいいことだと言えると思う。

【図4】生徒のワークシートより  
他者との議論から得られた視点を基に、改めて挨拶とは何かを考えている。

〈「共栄」に向かう視点〉このような展開によって生徒は自らの考え・立場が授業の序盤と終盤で変わったり深まったりすることを自覚し、時と場合に応じた挨拶時の判断・行動を考えていくことができるようになる。終末では、生徒がワークシートへの記述を通して、なぜ自己の考えが変容したり深まったりしたかについて

「省察」し、道徳性の育みにつながると考える。

#### 4 実践を終えて

授業の展開2)の段階で生徒からは「挨拶は相手への敬意を形で示すものだ。」という意見が出てくる。展開4)の資料1はその考えを後押しするものだが、資料2において「挨拶に評価がつき、進級に関わる」という点で、様々な生徒の意見が現れる。「自発的にするもので、強制されるべきではない。」「社会に出てから困らないように、学生のうちから慣れておくことも大切。」「形だけに意識が向いて心が込められなくなっていく。」「心があっても、態度で示さないと伝わらない。」と対立意見が交わされた。その両者の立場から出された意見を基に、「成績のためにやるものではなく、仲を深めるためにやるもの。」「心を込めて、大げさじゃなくてもいいから気持ちを入れる挨拶をすることが一番大切。」など気持ちや心、場に応じた判断、自発的にするものといった礼儀や挨拶の意義を共有する姿が見られた。またこころのおとからも、挨拶の在り方について他者との価値観を交流することで道徳性が深まった実感に関する記述が見られた。

### 第3学年

- 題材：規則？それとも思いやり？（第3学年）
- 教材：「元さんと二通の手紙」（中学生の道徳3年「自分をのばす」廣済堂あかつきp.150～154）
- 内容項目：C-10 遵法精神、公德心

#### 1 題材について

「遵法精神、公德心」の内容項目ではあるが、場面設定が「思いやり、感謝」の内容項目にも関連しており、善意から行動しようとするのが、実際にはきまりに反しているという場面において、どちらの立場をとるかについての葛藤が生じる。本題材では葛藤場面について考えることで、それぞれの立場を選んだ理由について交流し、考えを深めていくを通して、きまりを守ることは我々の安全や生活を守ることにもつながるといふ、きまりの意義についての理解を深めることをねらった。

#### 2 授業の展開

- 1) 身の回りにある規則やルールを想起する。
- 2) 副読本「元さんと二通の手紙」の前半部分の概要を紹介する。  
**【基本発問】もしあなたが元さんなら、規則を破ってでも姉弟を入園させるだろうか。**
- 3) ワークシートに自分の立場とその理由を記入し、黒板にネームプレートを貼る。また、その理由を全体で交流し、意見交換をする。
- 4) 副読本「元さんと二通の手紙」の全文を範読する。  
**【中心発問】もしあなたが元さんなら、規則を破ってでも姉弟を入園させるだろうか。**
- 5) ワークシートに自分の立場を改めて記入し、立場が変わった場合は黒板に貼ったネームプレートを移動させる。また、理由を全体で交流する。
- 6) 授業を終えて「心にひびいたわ〜ド」に印象に残った生徒の発言を記入する。また「こころのおと」に何によって自分の考えが深まったり変容したりしたかについて記入する。

#### 3 「省察」を活用した「自律」と「共栄」に向かう学びの手立て

##### (1) 自己と他者の考え・立場を比較し、道徳的価値を多面的・多角的に捉える学習展開

本時では、生徒が「もし自分自身が元さんの立場だったら」と自分ごととして状況を捉え、自分の考えに基づいて「姉弟を入園させるかどうか」を選択する場面を2回設定することで、生徒自身が自己の変化を自覚することをねらった。1回目の場面では、生徒が個人の考えに基づいての選択をする。その立場を黒板に

ネームプレートを貼ることで可視化し、理由を全体で交流したり、意見を交わしたりすることを通して規則を守ることに對して多面的・多角的に考えることになる。2回目の場面では、交流の中で出された多様な考えを基に生徒が再び自分の立場を選択する。＜「自律」に向かう視点＞また、2回目の選択の理由を交流する場面は、自分や他者の考えが互いに新たな視点を与え、互いを支え合っているという認識につながる。＜「共栄」に向かう視点＞さらに授業の終末場面では「心にひびいたわ〜ド」と「こころのおと」を活用した「省察」のアプローチにより、自分の道徳的価値の深まりや変容について生徒自身が自覚することになる。そのことが、道徳的価値の深まりや変容の過程を「省察」し、道徳性が養われることにつながると考えた。

#### 4 実践を終えて

1回目の選択場面では、半数以上の生徒が「入園させる」という立場を選択していた。黒板に可視化された内容を基にそれぞれの立場を選択した理由について交流する中で、最初は「姉弟のことを考えたら規則は破ってもよい」という考えと「責任をとれないから規則は守るべき」という考えの対立から始まった。しかし交流を進める中で、「子供の命に関わることがあるのでは」という考えや、「規則は意味があって決められている」という考えが出され、どちらの立場を選択した生徒も、本時の内容項目に迫る規則そのものの意義について意見を出すようになった。その後、中心発問によって2回目の選択をして意見を交流する場面を設けた。1回目は「入園させる」を選択した生徒が「入園させない」を選択し、「優しさがあれば逆に規則を守るべき」と考えるようなるなど、自分の立場を変えた生徒も変えなかった生徒も、規則そのものの意義に触れる考えを発言するようになり、内容項目に迫ることができたと考える。また、終末場面での「心にひびいたわ〜ド」と「こころのおと」

の記述では、図5の記述のように自己の考えの変容の自覚化と、それが何によって変容したかに関する記述が多く見られた。

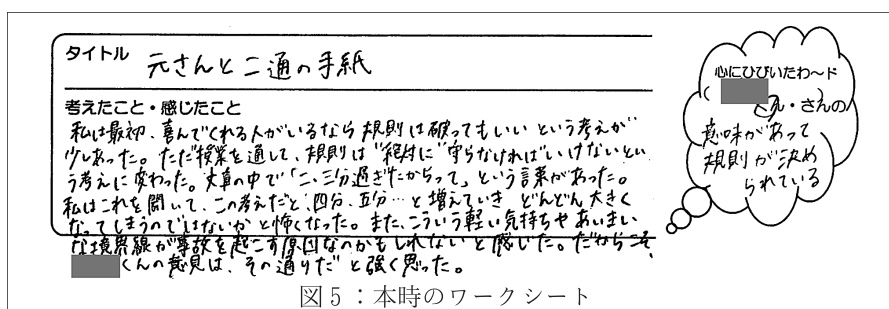


図5：本時のワークシート

#### IV 実践から見えてきたこと

2年次の実践では、新たに設けた「省察」を活用した「自律」と「共栄」に向かう学びの手立てが、より一層生徒が自己の道徳的価値を多面的・多角的に捉えて理解を深め、自己の変容や深まりを自覚し、それが何によるものなのかを明確に捉えることで道徳的価値の理解を深め、道徳性を養うことに寄与することがうかがえた。また、1年次の課題であった手立ての数を工夫して増やすことや、複数の価値が対立するような題材においても「自律」と「共栄」に向かう学びの手立てが活用できることの検証についても、一定の成果が得られた。一方で道徳性に関しては1時間の授業で養われることには限界がある。よって今後の課題としては、「省察」を活用した「自律」と「共栄」に向かう学びの実践を積み重ね、中長期的に生徒自身が自己の変容を捉えるための取組を行うことなどが挙げられる。

#### V 参考文献

- ・荒木紀幸『考える道徳を創る 中学校 新モラルジレンマ教材と授業展開』明治図書、2017年
- ・諸富祥彦『「問題解決学習」と心理学的「体験学習」による新しい道徳授業』図書文化、2015年
- ・田沼茂紀『道徳科で育む21世紀型道徳力』北樹出版、2016年